

このバンブーシューツ(筍)が大和高田市とリズモー市の情報交換に役立つ立派な竹に成長しますように

<祝 姉妹都市 50 周年 リズモー市で記念式典>

2013年、ニューサウスウェールズ州リズモー市と奈良県大和高田市が、1963年にオーストラリアと日本の間で初めてとなる姉妹都市の締結から、50周年の節目を迎えました。

8月7日リズモーシティホールで、記念式典が盛大に行われました。姉妹都市を結ぶ橋渡し役となった、ポール・グリーン神父のスピーチに続き、吉田市長、ジェニー・ダウエル市長がそれぞれ次のように、スピーチしました。

吉田市長の挨拶

7万人の大和高田市民を代表し、姉妹都市提携50周年を、リズモー市の皆さまと共に祝いできることを、心からお喜び申し上げます。



まず、始めに、一昨年2011年3月11日、我が国に甚大な被害をもたらした東日本大震災において、オーストラリア政府を始め、国をあげて救援の手を差し伸べていただきましたことに、深く感謝申し上げますとともに、心より厚くお礼申し上げます。

リズモー市においても、地震発生1週間後には、募金活動を行っていただいたと、聞きました。リズモー市民皆さまのご厚意に、大和高田市民一同、感服いたしました。また、大和高田市の派遣学生がリズモー市を訪問した際に、グリーン神父様も出席し、リズモー市役所で追悼式を開催していただきました。改めて心からお礼を申し上げます。

さて、今回、私は市民50名とリズモー市を訪問いたしました。本日、皆さまと盛大に姉妹都市提携50周年をお祝いできることは、大きな喜びであり、また、その記念式典にお招きいただいたこと、とても細やかなお心遣いに、心よりお礼申し上げます。

私たちは、この姉妹都市締結を機に、これまで両市の市長や市民がお互いの街を訪問し、スポーツや音楽による交流を重ねてきました。1985年から始まった交換学生制度では、両市で300名を超える学生が、ホームステイによる交流で、文化や生活様式の違いを肌で感じ、互いに理解し、絆を深め、友好の輪を広げることができたことは、大変貴重であり意義ある交流であると思います。

これからも、リズモー市とともに、福祉・教育・環境など、多岐にわたる姉妹都市交流事業を進めることができるよう、より一層皆さまのご理解とご協力を賜り、共に絆を深めていただきますよう、お願いいたします。

この交流が今後さらに発展し、いつまでも、この素晴らしい関係が続くことを心よりお祈りし、私の姉妹都市締結50周年のご挨拶といたします。



Jenny Dowell 市長の挨拶



本日の午前、私たちは2つの市を永遠に繋ぐ友情の絆をお祝いするために集まりました。

50年前、リズモー市長クライド・キャンベル氏と名倉仙蔵 大和高田市長は、ポール・グリーン神父様の先導の下、友好盟約書にサインをしました。1963年に署名された姉妹都市盟約書には次のような文面がございます。

「この交流、この友情は両市間のみにとどまらず、その母国日本とオーストラリアにまで及ぶであろうことを信じる。さらに、この両氏の協調が全世界の平和に貢献するであろうことを確信する。」

それから、何十年にもわたり、定期的な手紙、贈り物、訪問の交流が行われてきました。大変な時にはお互いが助け合い、深い絆を築いて試練を乗り越えてきました。

リズモーは大和高田同様、50年前とはずいぶん様変わりいたしました。変わってしまったことはたくさんありますが、一つだけ不変なものがございます。それは私たちの関係が重きをおく価値でございます。この永続する関係において、重要なことの一つに、私たちの学校間で毎年行われる学生の相互派遣があげられます。リズモー市の代わりに、何年もの間これらの訪問を主催されているコリーンさんとリック・バーチュさんの組織に感謝の意を表します。

シドニーではこの月曜日に、CLAIR(クレア)により姉妹都市に関するフォーラムが開催され、私たちの50周年記念が称えられました。そして今朝、私達はシティホールの日本の楓の木のもとにある記念碑の除幕式を行いました。

今夜私達は、リズモー・大和高田の姉妹都市提携50周年をお祝いし、そして再び盟約を交わします。

吉田誠克市長と大和高田市民の皆さま、あなた方のご出席は私たちの友情を深めたことを表しています。リズモー市は皆さまとも約束を分かち合うと私は確信しています。

いつか私とリズモー市民の方々で大和高田市を訪れ、特別な友情を継続する私達の決意も同じように強いということを証明できる機会を楽しみにしています。

(どちらも一部抜粋しました)

<リスモア市で大和高田デイ開催>

8月8日朝から、リスモア市の皆さんに大和高田市及び日本文化をよく知ってもらおうと、イベント「大和高田デイ」をグーネラバーセンターで、開催しました。幼稚園児や小学生たち約500人と市民ら約100人が参加しました。スーパーボール・ヨーヨー釣り、着物、日本舞踊、茶道、華道、書道、折り紙、七夕飾り、たこあげ、こいのぼりなどを体験してもらいました。大和高田市からの交換学生らによる、劇「ももたろう」も英語で上演しました。また、大和高田市内の小学校からの作品、絵画や書道、日本の紹介などを書いた壁画、幼稚園や保育園からは、日本の四季の壁面装飾が、会場いっぱい展示されました。

リスモア市の子供たちは、それぞれの学校からバスで次々に到着し、入口には長い列ができるほどでした。授業の一環として参加し、日本文化に触れ、とても楽しんでくれました。ジェニー・ダウエル市長も日本の着物を粋に着こなしていました。リスモア市職員の方々も、一緒にイベントに協力し、まさに両市の素晴らしい交流の場となりました。



ヨーヨー釣り



折り紙・凧揚げ



日本文化体験



大成功の「大和高田デイ」

友好協会 会長 村島 靖一郎



姉妹都市締結 50 年の記念行事の中で、私の一番の気がかりは、8月8日の「大和高田デイ」でした。

大和高田市のスタッフの綿密な計画と、ケース何杯もの器材の準備などが、成功した直接の原因ですが、オーストラリアの子どもたちに大和高田市の紹介をしようとする文化・文物が楽しく受け入れられたのが良かったと思います。

子どもたちの会場への動員や、開催場所の設営と諸器具の準備などを、快く協力してくださった、リズモー市のスタッフの方々に、御礼申し上げます。プレゼントした着物を喜んで着てくださったジェニー・ダウエル市長をはじめ、マネージャーのリノ・サンティンさん、常に連絡を蜜にして準備などお世話になった市長秘書のスー・ウエイドさん、本当にありがとうございました。また、サザンクロス大学にある「ジャパンセンター」では、マクラーレン・温子さんにいろいろ案内していただき感謝しております。

ロッキークリークでいただいた軽食、中でも最後に出たビスケットの、美味しかったこと！

心からの歓迎と接待をいただき、誠意溢れる両市民の交流が友情の輪を一段と広げ、親密の度を深めることが出来たことは、確かです。

50周年記念行事は大成功であったと確信し、お世話になった皆様に心から感謝を申し上げます。



<留学生 リズモーへ>

今年も7月26日から8月9日までの15日間、6名の高校生と随行教員1名が、リズモー市を訪れました。

留学生たちは、初めてのホームステイで緊張しながらも、ホストファミリーをはじめとした現地の人たちとの交流など、楽しく有意義な体験をしたようです。

また、今年、50周年の記念行事にも参加し、両市の歴史についても学ぶことが出来ました。



留学生たちに、感じたことや思ったことを聞きました。

1. リズモー市の街を見て感じたことは？

- ・映画の世界にいるみたいで、道が広くてかっこいい町並みでした
- ・大きい家が多かったが、天井が低く感じました
- ・信号がほとんど無く、交差点ではロータリーになっているので、スムーズでした
- ・リズモー市街地は多くのお店がありましたが、郊外は街灯もほとんど無く、夜はとても暗かったです
- ・街の中では、ハトやカラスではなく、いろんな種類の色とりどりの鳥がいました



2. 良かった場所・印象に残ったことは？

- ・2日間行った学校は、日本語の授業もあり、とても楽しかったです
- ・ホストファミリーと行った滝とビーチです 自然豊かで感動しました
- ・ドリームワールドで、一回転するローラーコースターがとても楽しかったです
- ・Killen Falls の滝で、マイナスイオンを感じました
- ・バイロンベイでは、真っ白な灯台に真っ青な空と海の水平線が美しかった
- ・クジラやイルカが泳いでいました



3. 文化・習慣の違いに驚いたことは？

★生活について

- ・お風呂ではお湯に浸かる習慣がなく、朝晩は寒かったので気合いを入れてシャワーを浴びていました
- ・とても驚いたのは、リンゴを丸かじりすることです(そのせいか、リンゴは少し小さかった)
- ・一般道路に、100キロの表示があり驚きましたが、スクールゾーンという子どもたちが通る道は40キロになっていて、みんな速度を守って運転していました
- ・自然豊かで、ゆったりと時間が流れていました
- ・モーニングティーの習慣があり、毎日11時になるとコリーンさん手作りのクッキーやケーキを食べられるのが楽しみでした
- ・風邪をひくと、体を休めるのではなく、血流を良くするため動きまわります
- ・飲み物が約3ドル(270円)と高く、日本のようにどこでも手軽に買えませんでした
- ・食事は日本の方がバランス良く種類も多いように思います

★学校について

- ・授業中はパソコンを使ったり、立ち歩いたり話したり、お菓子を食べたりして自由でした
- ・自分たちで教室の掃除をしたりしないこと
- ・放課後のクラブ活動がなく、バスなどで直帰している生徒が大半でした
- ・気さくな人が多く、話しかけてくれることも多かったです
- ・日本語の授業は、すごく新鮮で楽しかったです
- ・アグリカルチャーの授業があり、にわとりや牛だけでなくアルパカも飼っていた
- ・2限目と3限目の間にモーニングティーの習慣があり、その後ランチ1とランチ2と何度も軽食をとりました





4.ホストファミリーと一緒に過ごして

印象に残ったことは？

- ・夫婦の仲がとても良いことです 二人で手を繋いだり、楽しそうに会話をしてご飯を食べたりして、自分も将来こんなふうになりたいと思いました
- ・毎日があっという間で、折り紙で遊んだり、写真を見せてもらったり、お仕事の話を聞かせてもらったりと楽しく過ごしました
- ・本当の家族のように温かく迎え入れてくれて、親切にしてくれてありがたかったです 感動しました
- ・電子辞書など使わないで、何とか会話していたら、ホストファーザーに「あなたの英語、とてもいいよ」と褒めてもらい自信になりました
- ・日本のことに興味を持っていてくれていて、嬉しかったです
- ・親戚付き合いの多いホストファミリーで、毎日のように誰かが家に来ていました 日本へ来たこともある同い年の子とマンガを音読したりしました 夜はBBQをして、そのあとにはプールに入りました
- ・常に、どうして見ず知らずの日本人をこんなに優しく家族のように接してくれるのだろうと思っていました 一緒に過ごすうちに、自分がいつかここにいたのかわからなくなるほどでした お別れする時には「また、すぐに帰っておいで。いつでも待っているよ」と言われ、とても寂しく、嬉しくて涙を流しました



5.姉妹都市 50周年記念式典に

参加して思ったことは？

- ・50周年記念の年に行けてよかった
- ・このような会に参加することがあまりなかったので、緊張しました
- ・これからもっと両市間の距離が縮まっていくことを感じました
- ・50年間、リズモーと大和高田が姉妹都市として仲良く交流してきたように、他の国の人ともっと親しくなりたいと思いました
- ・スピーチにもあったとおり、100周年の式典にも参加できればいいな、と感じました



6.今回の経験をこれからの将来に

どう活かしていきたいですか？

- ・将来は小学校の先生になりたいので、生徒たちに今回の思い出を話して、ホームステイに興味を持ってもらいたいです
- ・自分から積極的にコミュニケーションをとることの大切さを知ったので、恐れずに頑張っていきたいです
- ・積極的に他の国の人と交流し、「日本っていいな」と思ってもらえるように心がけて生活したいです
- ・大学で英語を勉強して、オーストラリアに留学したいと思いました
- ・日本についてもっと知り、他の国の人に伝えていきたいです
- ・2週間の経験で自分の視野が広がったと思います たくさんの人と接し「いろんな人の立場に立って考える」という言葉の意味がわかりました
- ・文化の違いを共有することの楽しさを知りました
- ・今回、たくさんの人々に、無条件に優しくしてもらったことに感動しました そして、自分も人に優しく出来るような人になりたいです また、自分の家でも交換学生を受け入れたいです
- ・英語を勉強し、胸を張ってまたリズモーのホストファミリーの所へ“帰りたい”です



<リスモで50周年記念パーティー>

8月7日 Invercauld House で、50周年記念ディナーパーティーが開かれました。その席で、両市長が再び盟約を交わし、これからの50年とそれ以上にわたり、両市の絆となる再確認書にサインをしました。

また、両市長による記念品の交換、吉田市長からグリーン神父と、交換学生の派遣に尽力いただいているコリーンさんに、感謝状と記念品が贈られました。



<日豪姉妹都市交流50周年記念フォーラム>

8月5日にシドニーのウエスティンホテルにて、自治体国際化協会（CLAIR）主催の姉妹都市記念フォーラムが開催され、吉田市長やジェニー・ダウエル市長、在シドニー日本国総領事や日豪姉妹都市関係者約150人が参加しました。そこで、リスモ市と大和高田市の50周年記念が称えられました。

また、姉妹都市締結にご尽力いただいたグリーン神父にCLAIRから感謝状が贈呈されました。



<グーネラバー公立学校より感謝状>

8月8日の「大和高田デイ」に参加した小学校からの感謝状が届きました。

[内容]

吉田誠克市長 殿 市民訪問団の皆様

グーネラバー公立学校の生徒、教員・職員一同より

2013年8月8日に開催された、大和高田市の日に参加できたことを、心より感謝しております。

わが校の生徒にとって、あなた方の文化に触れ、学べたことは、またとない素晴らしい機会でした。

ありがとうございました。

Mark・Spencer 校長

